

歴史点描 19 「備忘録」にみえる日露戦争 その1

今、私たち網干歴史講座会員は、「備忘録」の解説をすすめています。

「備忘録」の詳しい記述は、明治37年3月20日「興浜村総代に当選す」から始まり、網干興浜を中心とした明治末期の出来事が記されています。農業に関すること、堤防や橋の修繕のこと、魚吹八幡神社のことなど。しかし、その中で、かなりのページが日露戦争に関する事に費やされています。日露戦争は明治37(1904)年2月にはじまり、しだいに戦闘は激化し、多くの犠牲を出しながらも明治38年9月に日本は大国ロシアを破りました。以下、「備忘録」における日露戦争に関する記述を見ていきます。

4月19日「動員令に接し」とあります。この日以降、餞別贈呈や兵入隊の時の送別について総代たちの間で協議されました。餞別は一人前5円、送別会はしないことが決まりました。

4月22日 軍人入営を小坂まで送りました。

6月10日 軍人遺族救護について協議されました。軍人遺族貧困者には、大人一人一日金4銭、小人金2銭与えることと決まりました。

6月13日「後備入営に付網干駅(現在のJR網干駅)迄多人数送る」と書かれています。後備兵など軍については、次回以降に述べたいと思います。なお、この日以降も、9月21日、10月5日、12月1日、12月11日にも入営について書かれています。

12月8日「故一等卒塩津仁一郎君遺骨到着に付網干駅迄迎いに行く」と書かれているように、戦死者の遺骨が帰ってくるようにもなり、興浜では、12月19日に大覚寺で町葬が行われました。ほかに、12月13日から23日にかけて、大江島・浜田村・垣内村それぞれで町葬が行われたという記述があります。

「備忘録」解説はまだ少ししか進んでいません。今後もどのようなことが書かれているのか解説を進め、歴史を見つめ、学び、考えていきたいと思います。

*「備忘録」の原文は一部現代仮名遣いに直しています。なお、「備忘録」については、「歴史点描4」に解説しています。

網干歴史講座会員 小林淳子



大覚寺